

SNS と GitHub を活用した図書館新着資料情報の公開・通知システム

春名 航亨

近年、オープンデータがソフトウェア開発プロジェクトのための共有ウェブサービスである GitHub を活用して公開されている。それらに共通している特徴として、PDF、Excel、Web ページなどで公開されているデータから必要な情報を機械的に集める「収集」、開発者向けのマシンリーダブルな形式での「公開」、非開発者向けにわかりやすく情報をまとめた「通知」を行っていることが挙げられる。オープンデータ公開システムを構築するにあたって GitHub を利用する理由としては、これらの手順を実行するための環境が容易に使用できることが挙げられる。GitHub Actions や GitHub Pages、Pull Request、Issue など、GitHub に備わっている便利な機能を活用することで、基本的に無料でオープンデータの継続的な更新・公開が可能となる。

本研究では、図書館に毎日受け入れられる「新着資料」の情報を、OPAC など Web 上に公開されたシステムから収集・オープンデータとして公開・一般の人々向けに通知を行うシステムの構築にも上記の手順が応用できるのではないかと考え、GitHub を活用した、図書館新着資料データの収集・公開・通知システムを作成することとした。システムの作成にあたっては、これまで OPAC や一般の図書館 API では公開されていなかった新着情報に関するデータを、扱いやすい形式にして一般に提供すること、かつ、同時にそのデータを利用したシステムを運用することが可能であること、またデータの更新性を確保できることを実証することを目指した。

実装したシステム nowlibcrawl は、GitHub 上で毎日定期実行され、OPAC から新着情報を取得、JSON 形式で保存して Web 上に公開、またその情報を使って Twitter 上に新着情報をツイートとして投稿することでユーザに通知を行っている。

Nowlibcrawl は、当初は図書館利用者への新着情報の通知を行う目的で作成したものであったが、結果としてその新着資料として取り上げられている著者による拡散行為によって、一定の広報効果を生む可能性があることがわかった。今後の課題として、本システムは大学図書館を対象としたものであったため、一般の公共図書館を対象として本システムを運用した場合、どのような反応が得られるかを検証することが挙げられる。また、JSON 形式以外に通知する方法として、コロナダッシュボードや BODIK ODCS などのようにわかりやすくデータを閲覧できる Web ページや、RSS フィードによる新着資料情報の配信なども今後の課題である。

(指導教員 鈴木伸崇)